

地域の一品を活かした具体策を披露

わが町の温暖化対策“エコレシビ”オーディション

19団体が趣向を凝らして出場

脱温暖化センターひろしまは、広島県と共催で、「わが町の温暖化対策“エコレシビ”オーディション」を十二月三日に広島国際会議場（広島市）で開催し、県内各地から温暖化防止活動に関心のあ

る二百五十八人が集まった。この事業は、地域のシンボルの一品を生かした活動を展開することで、脱温暖化の啓発を行うとともに、地域の温暖化対策の推進を図ることを目的として、全国各地で行っている「ストップ温暖化一村一品大作戦」の一環として実施した。

グランプリに「くれ環境市民の会」

最後に、審査員による審査と来場者の投票結果により、グランプリ一団体と審査員特別賞二団体が発表された。グランプリには「くれ環境市民の会」が選ばれ、「今まで地道に継続してきたことが評価されてうれしい。これからも様々な地域へ出向いていき

たい」と喜びとともに、今後の意気込みを語った。今後も、当センターでは、地域での取り組みが県内に広

が、定着していくよう地域の活動を支援していく。また、グランプリに選ばれた「くれ環境市民の会」は、来年二月十三・十四日に東京都で開催される全国大会に参加する。

域が進める脱温暖化活動の可能性。私たちが取り組むべき目標」と題し、気候ネットワーク事務局長の田浦健朗氏が、深刻化する温暖化の現状や世界での取り組みについて紹介。国内の対策強化の必要性や、それを進めていくにあたって、国はもろろんのごとく、地域も明確なビジョンを持つて活動することが重要であると訴えた。

平成21年度 わが町の温暖化対策“エコレシビ”オーディション 受賞団体のエコレシビ紹介

グランプリ

「地球温暖化防止啓発 エコ屋台」 くれ環境市民の会

誰もが興味を持つ広報スタイルとして、呉名物の「屋台」をヒントに「エコ屋台」を考案。「エコドライブ」や「節電おでん」などメニューは様々で、屋台を訪れた人が、自分に合った活動方法を見つけ、CO₂削減の実践につなげてもらおうと、土曜夜市や環境イベント、大和ミュージアムなどへ出展。これまで、温暖化防止啓発活動を継続してきた実績があるが、もっと広く啓発活動を展開していこうと、関心のない人たちに向けても屋台を引いて出向く姿勢とアイデアが高く評価された。



審査員特別賞

「家庭の省エネ診断推進事業」 広島市地球温暖化対策地域協議会

「省エネ診断」を受けられた方に、各家庭の事情に応じた「省エネ対策メニュー」を提示するとともに、オリジナルの解説資料やグッズの活用で省エネ意識を啓発することで、家庭の省エネ行動を後押しする活動を展開。「省エネ診断」というツールは、県内でも実践する団体が増えているように、取り組みやすいうえに、CO₂や水道光熱費の削減量など、具体的なデータが得られることで、対策につなげやすく、これからの時代に合っていることが評価された。

「アマモ探訪“地球の叫び”」 町づくり脱温暖化やすうら

安浦三津口湾内のアマモが育む海を舞台に、里海・里山の自然環境の観察・体験を通して、環境や暮らしの変化を学ぶとともに、イベントなどで町民や来場者に脱温暖化意識を啓発することで、温暖化防止活動に取り組み仲間を増やしていこうという活動を展開。町内の各団体と協力・連携しながら、海から山まで町全体で取り組もうとする姿勢が高く評価された。

広島県公衆衛生大会 五十年のあゆみ

- ◆ 第一回（昭和33年度）ブロックごとに開催していた公衆衛生推進大会を一本化して開催、スローガンは「健やかな暮らしをつくる人々のつどい」。蚊とハエのいない明るい生活実践運動優秀地区の表彰。
- ◆ 第二回（昭和34年度）初のねずみくじ抽選会を実施、景品はテレビ・洗濯機など。大会決議で「健康感謝の日」を定め、健康感謝募金の実施を決定。
- ◆ 第三回（昭和35年度）秩父宮妃殿下ご台臨。全体会議「地域の公衆衛生自治活動を伸ばすには」。ラジオ中国公開録音放送「ふるさとの明星」。県衛連表彰始まる。
- ◆ 第七回（昭和40年度）「健康感謝の日」街頭パレード。特別講演「日本脳炎の予防策について」。
- ◆ 第十一回（昭和45年度）全体会議「一九七〇年代の公衆衛生は如何にあるべきか」。特別講演「一九七〇年代の公害問題について」。
- ◆ 第十四回（昭和48年度）公開座談会「健康活動発展の道」。特別講演「環境破壊と健康」。
- ◆ 第十七回（昭和51年度）公開座談会「脳卒中半減運動の推進について」。特別講演「ふるさと再興」。
- ◆ 第十八回（昭和52年度）創立20周年記念大会。公開座談会「地区衛生組織活動（コミュニティ運動）の20年の歩みと今後の展望」。特別講演「日本の岐路を考える」。
- ◆ 第二十一回（昭和55年度）8ミリスライドコンクール入選作品上映「健やかに老いる健康教室」。
- ◆ 第二十三回（昭和57年度）創立25周年記念大会。歴史と展望「県衛連25年史と展望」。記念講演「生きがいと人生」。



第50回広島県公衆衛生大会講演要旨

「この世の中で大切なもの ～環境・健康・人間味～」

落語家・3R推進マイスター 桂文喬氏



3つの「味」で味のある人生を 何事も「興味」を持って取り組むことが大切

味のある人生を送るために、三つの「味（み）」を持つてほしい。それは「趣味」「興味」「人間味」である。

「趣味」を持つことは、大変良いこと。趣味によつて、ストレスが解消され、

健康状態が良くなる。健康であることは、何をすることも第一に大切である。次に、何事にも「興味」を持つこと。環境問題において、これから大切なのは、どう折り合いをつけていくかということにある。地球温暖化を止めるために、こ

こかに折り合いを見つけていることが大事。そうするためには、「興味」をもつて取り組み、無神経な気持ちで行動しないことが必要。「今日ぐらいいええか」「私ぐらいいいか」の考え方はため。私たちは、子孫に地球を残すのではない。私たちが地

の冬から車に乗るな、暖房をやめろと言つても無理。文明が進歩した今、車や電化製品を使わなくてはやっていけない時代になってしまった。しかし、例えば、エアコンの暖房であれば設定温度を下げるというように、ど

球を借りているのである。できるだけきれいな状態で返さなければならぬのである。そして、環境問題は、個人だけでは解決できない。人だけでは解決できない。「行政」「企業」「個人」の三位一体での取り組みが大切。行政は、やってはいけないことを法で規制する。企業は、エコな良いものをどんどん発表し、努力をしていくことが必要。個人にとって「人間味」が大切なのはもちろんのこと、行政や企業も、最終的には「人間味」。人間らしく、人間として何が大切かを考えれば、自ずと何を優先すべきかがわかるはず。これら三者が「人間味」を持つて、うまくやっていくことが大切なのである。

（文責＝編集部）